

災害お見舞い申し上げます

この度の東日本大震災で被災された方々、そしてこのニュースレターがお手元に届くのに時間がかかるかもしれない当NPO法人の会員の皆さんに、心からお見舞い申し上げます。

今はまだご苦勞が多く疲労困憊の状態とお察し申し上げますが、どうぞお身体を大切に、一日も早い平穩な生活に向けてご健闘くださるようお願い申し上げます。

何かできることがありましたら、事務局に連絡いただきますようお願いいたします。何なりとお命じください。

TEL 0797-71-0810

E-mail:videodoc@osk2.3web.ne.jp

田上 時子のエッセイ

家族に変化が...

平成22年10月の国勢調査結果の第一報（人口速報集計結果）が2月25日に公表された。人口は1億2805万6千人で前回の平成17年（2005年）から横ばいで推移。東京都、神奈川県、千葉県など9都府県で人口増加、38道府県で人口減少。世帯数は5195万2千世帯で4.8%の増加、世帯規模は2.58人から2.46人で縮小傾向にある。

国勢調査は、日本の人口や世帯の実態を明らかにすることを目的として、大正9年（1920年）以来5年ごとに行われる。日本の家族に変化があることがよく分かるが、特に最近推移著しいのが「未婚率」だ。

日本の未婚率は、1920年から1980年まで平均4~5%で横ばいだった。私は昭和26年（1951年）2月生まれだが、同級生はほぼ全員結婚経験者である。ところが1980年を境に男女ともに、男女の未婚率の割合が急上昇し、2005年の国勢調査で15歳以上人口の配偶関係をみると、有配偶者は男性が60.8%、女性が57.0%、未婚率は男性が31.4%、女性が23.2%となっている。25~29歳の未婚率は、男性が71.4%、女性が59.0%と2000年に比べそれぞれ2.1ポイント、5.0ポイント上昇している。さらに、35~39歳の未婚率では男性が30.0%、女性が18.4%と、2000年比ではそれぞれ4.3%ポイント、4.6ポイント上昇している。

未婚率上昇は5年毎、各年齢で上昇し、未婚化と晩婚化が進んでいるのが分かる。

日本は一般に結婚してから子どもを産む社会なので、未婚化・晩婚化が進むとおのずと出生率は低下する。子どもができたから、あわてて結婚する人を含めて、日本の出産は法律婚と極めて深く結びついている。

日本社会は、結婚が増えないと、子どもの生まれない社会なのだ。そして男女とも独身未婚者が増え続けている。日本の出生率低下の原因は、女性が子どもを産まなくなったことより未婚化・晩婚化が影響していることが分かる。

さて、このまま未婚者の増加が晩婚化に向かうのか、それとも非婚化（生涯結婚をしない人の増加）に向かうのか、未婚化・晩婚化・非婚化が進んでも他の先進諸国のように出生率が増加する可能性があるのかどうか、今や1千万人を超える若い未婚者の実態に関心がある。6月公表の第二報（抽出集計結果）を待っているところだ。

